

「泉州のミライをつくるみんなの会議」芽吹く

関西国際空港を有する泉州地域は、大阪府の南西部、政令指定都市の堺市から泉南郡岬町までの13市町で構成されている。

関西国際空港の開港から22年後の2016年、このエリアで一つの民間の活動が芽吹く。「泉州のミライをつくるみんなの会議（センミラ会議<https://senmira.jp/>）」だ。阪南市議の上甲誠氏ら泉州エリアの有志7人が「泉州の未来像を考えよう」と発足した。当時の状況を、センミラ会議の実行委員たちはこう振り返る。「泉州は豊かな地なので、各市町は独自で発展のために取り組んでいました。連携して何かをしよう、という取り組みにはなりにくかったのです」。センミラ会議のメンバーは元気な泉州の人々に注目する。「泉州には活躍の場をもっと広げたい。また、これから活動を始めたいと思っている人々が多い。それらの人々をつなぐプラットフォームやコミュニティーが必要だ、と気付いたのです」。

活動は『もっとよく泉州を知る』ことから始まった。「泉州には山も海もある。歴史や伝承も残っている。泉州の各エリアから集まった人々が泉州を知ることから始めようと思ったんです」。犬鳴伝説が残る犬鳴山温泉郷では、修験道を体験した。ロボット見学や大阪湾での魚釣りも行った。イベントの後は飲み会になることが多い。ざっくばらんなコミュニケーションから参加者間に確かなつながりが生まれた。

キャリア・コンサルタントの山本美保子さんは「人々とのつながりが増え、活動を考える上での視野も広がりました。女性が元気になることで泉州を活性化したい」と言い、今、女性の就職を支援する活動を考案中だという。

イベント参加者同士で会社を起業したり、古民家を改装して民泊を始めた会員もいる。まさにセンミラがプラットフォームになって、人々がそれまでこの地域に見られなかったような新しい動きを見せ始めている。

「次のステージも模索しています」というセンミラ会議。次のイベントは3月15日に東近江のコミュニティファンド「東近江三方よし基金」を視察する“遠足”を予定している。

産経新聞社大阪本社 メディア営業局 企画開発部長



山も海もある泉州での活動。犬鳴伝説が残る犬鳴山温泉郷では修験道を、大阪湾では稚魚の放流を体験。